

山梨南中学校 平成26年度校内研究について

I 本校の学校課題

<平成26年度 学校経営の概要より>

校訓 日新「日に新たに」

1 学校教育目標

「日々に新たな心で、真理を求め、自ら考え、正しく判断し、進んで行動する生徒の育成」

目指す生徒像：「心身共にバイタリティのある生徒」

- (1) 自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成
- (2) 自らを律し、他人を思いやる豊かな心をもつ生徒の育成
- (3) たくましく生きるための健やかな身体をもつ生徒の育成

2 学校経営の基本方針

- (1) 将来の夢を育み、明るく生き生きとした学校生活を保障する教育の推進
- (2) 生徒の「豊かな心・しなやかな心」を育み、「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を身につけさせる教育の推進
- (3) 地域に信頼される学校づくりの推進
- (4) 教職員一人ひとりの力量の向上と学校組織の活性化
- (5) 教育環境の整備・充実

3 学校教育目標具現化に向けた中期的学校経営方針（詳細は省略）

- (1) 全ての生徒に「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める
- (2) 「自己教育力」の基盤が培われるよう、「確かな学力」を保障する指導と評価に努める
- (3) 集団におけるより良い人間関係の確立を図り、主体的な学習態度の育成に努める
- (4) 全教育活動をとおして人間としてより良く生きようとする自己肯定感を育み、心豊かな生徒の育成に努める
- (5) 健康・安全教育の充実を図り、道徳的実践力を育成する道徳教育の充実に努める
- (6) 家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める
- (7) 教職員の資質・向上を図り、全教職員の英知が結集された「学校力」の構築を目指す
- (8) 施設・設備を整え、安全・安心な教育環境の充実を目指す

4 今年度の具体的努力点と重点目標（詳細は省略）

- (1) 「生きる力」の育成を目指した、知・徳・体の調和ある教育課程の編成と実施
- (2) 生きて働く確かな学力の育成
- (3) 「豊かな心・しなやかな心」を育み、生徒の自己肯定感の育成を目指した指導の充実
- (4) 健康でたくましい体の育成
- (5) 家庭・地域に信頼される学校づくりの推進

(1)地域の概要

本学区は、都市的性格の強い加納岩地区と農業的性格の強い山梨地区・日川地区の三地区から成り立っている。また、近年は他学区からの生徒も多数いる。保護者の職業は、会社員・公務員などが多く、かつては多数を占めた専業農家は2割程度へと減少している。日川地区・山梨地区での農業は、ぶどうや桃などの果樹栽培が中心で、ビニールハウス栽培なども盛んである。また、国道沿いの立地条件を生かした観光ぶどう園も多い。

こうした中、地域の教育に対する関心は高く、学校教育に対しても期待をもちながら、理解と協力を惜しまない。また、PTA活動も活発で、関連行事への参加率も極めて高い。しかし、地域外に勤務する父母の増加は、他の地区との人的交流を活発にする反面、住居地における住民のまとまりや地域で子供を育てるといった面で難しい問題も抱えており、地域や家庭における教育の充実が一層望まれる。

(2)本校の生徒の実態から

挨拶ができ、素直な生徒が多い。学習面において、意欲的な生徒が多いが、思考力・判断力・表現力・問題解決能力について十分に発揮できていない面がある。一方、学習活動の基盤となる基本的な生活習慣等や、基礎学力が身につけていない等の課題が見られる。

(3)「やまなし」道徳教育推進事業について 平成25～27年

*推進校で実施する内容

- 道徳の時間の特質をふまえた授業づくりに関する研究と、その成果の普及
 - ・第3回魅力ある道徳の授業づくり研修を推進校で実施→これが授業公開になります
- 家庭や地域と一体となった道徳的教育の実施
 - ・これまでの各校で実施してきた実践を広げる
- 研究の成果の把握
 - ・児童生徒への意識調査等の実施

(4)昨年度の校内研究の反省から

平成25年度 校内研究の反省

* どの項目も4段階で、当てはまる数字に○をつけて下さい。

4…よくあてはまる 3…どちらかといえば当てはまる 2…あまり当てはまらない 1…当てはまらない

1 今年度の研究主題・副研究主題について

①研究主題（研究の目的と内容）

「豊かな心で未来に向かって生きる生徒の育成」

②研究副主題（研究の手だて）

～しなやかな心を育成する道徳教育の充実～

研究主題・副主題を意識して指導を実践してきましたか。

4=13人 3=12人 2=0人 1=1人

この研究主題・副研究主題は適切であったかどうかなど具体的にお書き下さい。

- 適切であったと思う。（4）
- 本校の生徒の実態に合った、ふさわしい研究主題、副主題であった。
- 「やまなし」道徳教育推進校の指定を受けたが、その理念にも合った研究主題だった

（3）

- いじめなど人の気持ちが理解できない、あるいは理解しようとしないう生徒が増加する中で、学校教育の中心となる題材であると考えられる。
- 道徳的実践力を身につけさせるため具体的に組み立てる主題だと思う。
- 道徳の授業を中心に研究が行われたが、豊かな心を育成するためには、道徳教育の充実が必要であると実感できた。
- 校長先生の方針とも合致しており、来年度も継続しておくのがよいと思う。
- 変化の激しい社会で生きていく子供たちを育てていく上で、目先の課題だけでなく、見通した指導を意識することにつながるので、適切なテーマだったと思う。
- 教育課程全般で取り組みを進めていくことの大切さがわかる主題である。諸問題の根本となる豊かな心の育成はとても大切なことであるので適切であった。
- 豊かな心、しなやかな心をぜひ育てたいです。
- 多くの研究授業を行う中で、学校全体で取り組んでいたと思う。
- 部会研究を進めていく上で、主題、副主題を意識しながら話し合いを行っていたと思う

- 目指す方向がしっかりと固まるとよりよいと思います。具体的な取り組みを全校で行いたいです。

考察→研究主題・副研究主題共に、校長先生の方針や生徒の実態に合った適切なものであったとの反省がほとんどでした。しかし、それをどれほど意識し、深まりのある研究となったかという点では、来年度より一層意識して研究する必要があると感じました。

2 研究内容について

(1) 研究授業・公開授業について

10月の研究授業と1月の公開授業は研究主題にせまる取り組みとして適切でしたか。

4=18人 3=9人 2=0人 1=0人

研究授業・公開授業の時期・内容等が適切であったかどうか具体的にお書き下さい。

- 研究授業の内容は、研究主題、副主題に合っていて適切だったと思う。公開授業は2クラス授業、あいているクラスで研究会という設定で良かった。
- 3年生を10月にしていただき助かりました。
- 公開の学級数など適切であったと思う。
- 年間授業計画に基づいた普通の授業で良かった。
- 道徳の授業づくりの観点から、部会での話し合いの中から学年全体で取り組む姿が見られ、研究が深められた内容であった。
- 忙しい時にはありましたが、十分な研究ができたと思います。学年でのプレ授業がとても役だったと思いました。学年で協力できたことも良かったと思います。
- 内容等はよく調査し必要最低限のことはできたと思います。今後どうしていくかが問題です。
- 時期は一年のどこで行っても忙しく、十分に研究を進められる余裕を考えると今年と同様で良いと思う。
- 多忙ではあるが、内容も適切であり、成果があった。(3)
- 時期、内容ともに良かったと思います。(3)
- 生徒の興味関心をひきつける内容であった。
- しっかりと生徒が考えられる時間になっていた。
- 講師もお呼びするなど、未来への1つの導きになったと思う。
- 忙しい中、研究主任が非常に見通しをもって進めていたと思う。研究授業も研究会も内

容的にも素晴らしいものだったと思う。

▲事前に別のクラスで授業を持ちたかったが、時期的に厳しかった。

▲時期は1月でもいいが、金曜日のスキー教室、月曜日の公開は準備が大変だったので考慮したい。(2)

▲1月は、時期的に寒いし遅いかなという感じがします。

▲1月の公開授業の時期は、3学期始めで、スキー教室、連休明けということで少々忙しかったように感じた。(2)

考察→ほとんどの方が3(どちらかといえば当てはまる)以上に回答してくれました。研究授業や公開の内容・規模などに関しては、来年度も今年度と同様で良いかと思えます。しかし、公開の開催時期に関しては、何人かの先生から時期的に厳しいとご指摘を頂きました。11月や12月に移しても同様に忙しいと思えます。スキー教室の時期の検討など、年間指導計画の見直しと平行していかないと結局は同じかと思いました。

(2) 各教科のとりくみについて

研究主題にせまる取り組みとして適切でしたか。

4=6人 3=14人 2=0人 1=0人

今年度は道徳の授業を中心に進めてきました。来年度、教科のとりくみはどのようにしたらいいか、具体的にお書き下さい。

- 道徳教育と各教科の目標、内容及び教材を関連づけた授業研究ができればいいと思う。
- 教科も大切な教育課程の中のひとつであり、大切にしていきたい。道徳と教科の関わりについて実践事例研究などできたらありがたいと思えます。
- 来年度も道徳を中心として研究を進めていく中で、各教科の中にそれが生かされる場面や、教科から道徳的心情を育む場面が見られればよいと思う。(2)
- 今年と同様で良いと思えます。(3)
- 本年度のように各教科ごとの研究で良いと思う。
- それぞれの教科で目標を立て研究を行う、今年のような方向で良いと思えます。
- 各教科ごとに研究主題にせまる視点を設定し、年間を通じてとりくみを心がける。
- 道徳をどのように教科に取り組みかを深めていけると良い。
- 国語や社会等が良いかと個人的に思えます。
- 無意識のうちに道徳的態度で、また道徳心を培うような指導をしているのではないかとと思うので、別葉でどの単元で扱うかを明らかにしておけば今年度と同様で良いと思う。
- 別葉にも定めた道徳的な観点をより意識し、生徒にも伝わるような取り組みをしていくことで良いと思えます。
- ▲全教科内での統一した授業規律の確認と、別葉があるが、教科の教育課程の中にどのように入れていくのかが必要である。
- ▲各教科内での授業参観。
- ▲各教科で研究会を持った方が良い。
- ▲限られた時間の中で、できるならば教科部会の時間も設定して欲しい。
- ▲道徳一本にするとよい。
- ▲道徳でも良いと思えますが、もう少し絞って年間を通して取り組んでいきたいです。どうしても単発で終わってしまうような感じなので。

考察→ほとんどの方が今年度と同様の内容(道徳中心)で取り組むことに賛成を頂きました。しかし、教科毎の授業参観や研究会を持つことも大切ではとのご意見も頂きました。公開の初年度で、方向性を決めることに時間を費やして教科毎の研究には時間を割けなかったのが現状です。

来年度は少しは余裕が生まれると思いますので、教科毎の研究も一斉にという訳にはいかないと
思いますが、できるだけ開催できればと思います。

(3) 学力向上のとりくみについて

研究主題にせまる取り組みとして適切でしたか。

4=7人 3=14人 2=2人 1=0人

今年度は、学年での取り組み（自学の時間・家庭学習等）を中心に学力向上の取り組みを行ってきました。来年度も道德の公開も続く中、どのように改善していくか、どのようなとりくみがあるかなど、具体的にお書き下さい。

- 各学年の取り組みが中心であり、それぞれの学年のおかれている立場にもよるのですが学力向上は今後も重要課題であると思います。（2）
- 各学年の取り組みを粘り強く継続していくことが大切だと考えます。
- 家庭学習の定着については、今後も重点的に取り組まなければならないと思います。
- 家庭学習の定着を目指し、学年・学級で取り組んでいく。
- 全クラス家庭学習の実施。
- 学びの集会など、なぜ学ぶのか、どのように学ぶのか。自主的な学びが最も学力向上に
ながると思います。
- 今年度の取り組みを継続する。（2）
- 自学や家庭学習の手引きなどの取り組みの継続。（2）
- 自学については年間10時間程度しかとれないので、学習方法の定着や補充的な学習指導を行う今の状態で良いと思う。
- ▲家庭学習については、学年ごとなど、同一歩調で取り組んだ方が研究としては良いかと思う。
- ▲学年または学校全体で週1回もしくは月2回くらい継続して、小テスト→追試→課題というのもありかと思う。
- ▲家庭学習については、各教科日常行うことの整理、課題の定期的な提供を行っていくことが必要。
- ▲家庭学習の取り組みを強化するため、手引きの利用方法や学習の状況などを調べることができればよいと思います。
- ▲補習を必要としている生徒が沢山います。何とかして学力をつけさせたいとは思いますが、自学の時間も毎週あるわけではないので、計画的・継続的に学習が進められなかつ
です。
- ▲自学の時間を充実させる。
- ▲自学の時間を利用して、基礎学力の定着が本当に難しい生徒の取り出し等ができること
良いのかなと思いました。
- ▲朝学習や授業の中で確認テストを実施させる。
- ▲自主学習ノートの取り組みで、フリーの先生方にもチェックを手伝っていただくなどして
学年みんなで関われるとよいと思った。

考察→こちらほとんど当てはまるに回答して頂きましたが、当てはまらないの回答も2人いま
した。具体的な反省もいくつか指摘を頂きました。特に、自学や自主学習ノートの内容を学校で
統一した取り組みをする方が良いのでは、という意見が多かったと思います。来年度は全校体勢
で自主学習ノートを提出するなど、取り組みの必要があるか無いか再検討が必要になると思いま
す。

3 研究運営・組織・研究体制などについて

今年度の運営・組織・運営体制は適切でしたか。

4=16人 3=9人 2=0人 1=0人

来年度にむけて踏襲していきたい点や改善したい点についてご意見をお書き下さい。

- 道徳教育について3つの分科会に分かれて検討ができたことは良かったと思うので、継続して実施できればよい。(4)
- このまま継続していく。(4)
- とてもスムーズに運営されていたと思います。
- 時間が限られた中、研究主任中心に工夫して進められた。このような日常生活を大切に、研究のための研究にしない方向で進めて欲しい。
- 今年度は指定を受けたこともあり、研究推進委員会が何回か開かれたが、まだ研究主任の負担は大きいので、皆で協力体制をとっていきたい。
- ▲今年度の実践をさらに膨らませるために、実践の成果と課題の共有ができればよいと思います。
- ▲道徳の研究授業の指導案検討の回数を増やし、よりよいものをつくっていききたいと思います。

考察→基本的にほとんどの方が今年度の運営・組織・研究体制を継続していくに賛成をして頂きました。来年度は、今年度の取り組みを踏襲していきながら、教科毎の取り組みや自主勉強ノートの仕方など、いくつか出されたか課題を解決しながら研究を進めていく確認で良いかと思いますが…。

4 来年度の校内研究・実践の方向性についてご意見をお書き下さい。

- 今年度の研究・実践を継続していく。(5)
- 道徳研究の指定校として道徳教育を充実させる。
- 道徳の授業作りを中心に据えて、教科、特別活動との関わりに触れていく。
- 道徳については、年間計画に沿って、授業をできるようにしていきたい。
- 多忙の中での研究ですので、効率的・効果的な研究を目指していきたいです。(2)
- 勤労・奉仕面が弱いので、そうじをしっかりさせる手立てを研究したい。
- 相互の話し合いが大切だと思います。
- 道徳を中心に、学力向上で良いと思います。
- ▲保護者への公開をどうしていくのか
- ▲教科別葉に関わる授業の実践
- ▲道徳的実践活動の見直し
- ▲新道徳性検査の分析→共有→重点項目の設定→ねらいを明確にして取り組んでいく→検査(結果検証)

考察→3でも書いたように、基本的には今年度を踏襲していきながら、出された課題を少しでも解決するべく研究を深めていくという方向でいいでしょうか。

◇具体的な課題点(※は最後の校内研究で確認した内容)

○道徳教育

・保護者への公開をどうするか

※第3分科会で来年度検討して進めていく。

- ・地域との連携はどうするか
※第2分科会で来年度検討して進めていく。
- ・別葉に関わる授業(道徳以外)の実践も必要では
※各教科で実践してもらい、アンケート等を提出してもらう
- ・新道徳性検査の分析をどう扱うか

○学力向上

- ・教科毎の研究はどこまでやるかやらないか
※今年度同様に各教科ごとに行う。ただし、数回の話し合う時間をとるようにする。
- ・自主勉強ノートの活用をどうするか
※できるだけ全校体制で進めるようにする。

○公開の日程は…今年度と同様 or もっと早く(11月?12月?)

※すでに決定しているので、その日程で調整していく。

○道徳教育推進教師と道徳主任の位置づけ、研究主任との関わり…どこまで誰がやるのか

※年度初めにしっかりと確認をする。

道徳教育推進教師→本校の道徳教育全体のコーディネーターであり、他の教科や分科会の連絡調整などを行う。

道徳主任→道徳の授業をどう仕組むかの研究の主となる。道徳の公開をコーディネートする

○新しい道徳の本「わたしたちの道徳」の活用の仕方…年間指導計画はどうするのか

※来年度、本と指導書を見ながら一年をかけて指導計画を作り上げていく。

○その他

職員用道徳コーナーの整頓→現在の職員室の窓側にある道徳コーナーを、会議室の放送器具が置いてある棚を整理して移動する。

II 本年度の研究主題・研究内容について

(1)研究主題・副研究主題

研究主題（研究の目的と内容）

「豊かな心で未来に向かって生きる生徒の育成」

副研究主題（研究の手だて）

～しなやかな心を育成する道徳教育の充実～

(2)主題設定の理由

3年前の東日本大震災に際しては、被災地の子どもたち、特に多くの中学生が、自分の命を守り抜いただけでなく、地域の避難所運営の手伝いや清掃などのボランティア活動に進んで取り組むなど、様々な困難を乗り越え、大きな力を発揮しました。こうした力こそ、新学習指導要領の目指す「生きる力」にほかならず、多様な人々との関わりや様々な経験を重ねていく中でこそ豊かに育まれるものだと思います。

県教育委員会では、平成24年度より「しなやかな心の育成プロジェクト」を実施し、学校、家庭、地域が一体となった道徳教育を推進しています。自分や他人の生き方・存在を認め合い自他を敬愛するしなやかな心を育む取り組みが各学校において進められている最中です。このような「しなやかな心」を育成させることこそ、先述した東日本大震災の子どもたちのように、困難や挫折に直面しても、粘り強く最後まで諦めない子どもを育むことに直結していくことと思います。

新学習指導要領には道徳の目標について「学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。」とあります。道徳性を養うためには、要となる道徳の授業で「道徳的実践力（実践できるための内面）」を育み、各教科や総合学習、日常生活指導などを通して「道徳的実践力」を育むことができるのだと思います。このようなことから、道徳性の育成は週1回の50分の道徳の時間では十分とは言えないと考えます。各教育活動での道徳教育が、その特質に応じて効果的に推進され、相互に関連が図られる必要があると思います。また、道徳の時間において、各教育活動での道徳教育が調和的に生かされ、道徳の時間としての特質が押さえられた学習が計画的、発展的に行われることによって、生徒の道徳性は一層育まれていくことになるはずです。これらのことから、本校の生徒の道徳性をより身につけさせるために、道徳の時間を要としながら、各教育活動との関連を図ること、家庭や地域社会との相互理解と連携を推進することの研究を行うことと考えました。

2年目となり

(3)研究内容

①研究部会

○教科研究部会

- ・道徳教育と各教科の目標、内容及び教材を関連付けた授業研究

○道徳教育部会

第1分科会「授業研究」

- ・道徳の時間の授業改善、教材の開発などを研究

第2分科会「学校生活」

- ・授業以外の学校生活の中での道徳教育について研究
- ・生徒に道徳的価値を意識させる環境づくりの研究
- ・道徳教育と各月の生活目標を関連付けた授業研究 など

第3分科会「家庭・地域との連携」

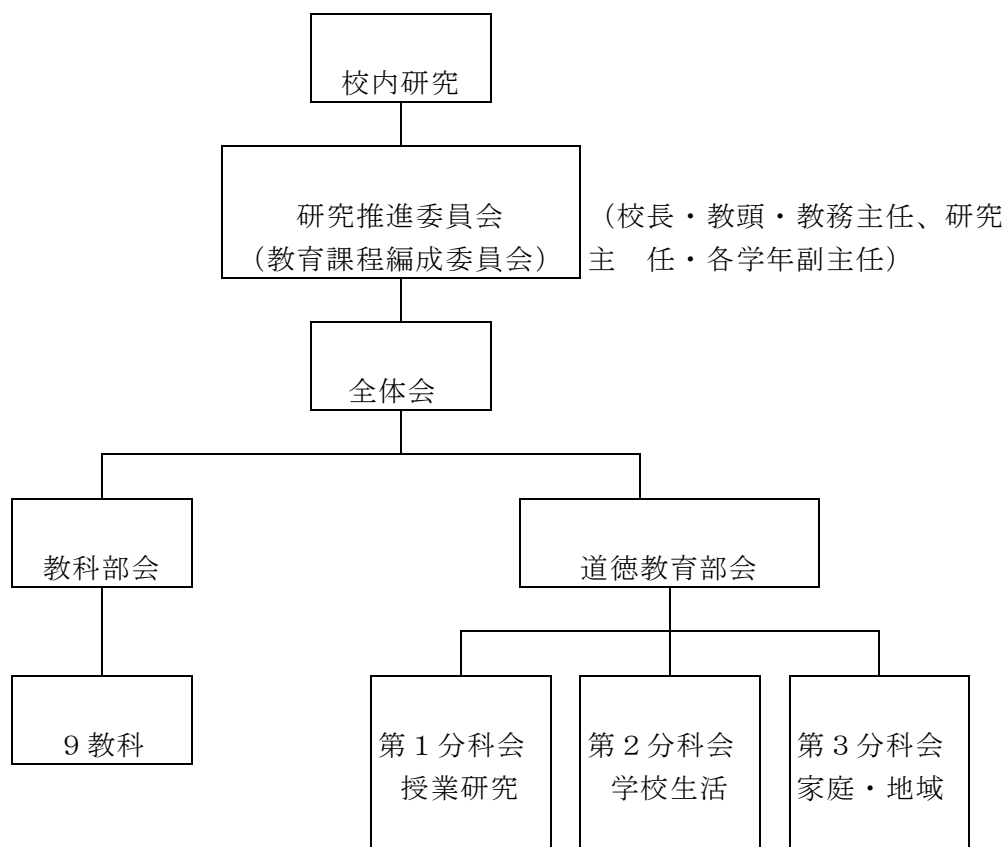
- ・家庭・地域の方の参加による授業研究（道徳授業地区公開講座）
- ・学校・家庭・地域が一体となって行う道徳教育の発信方法の研究 など

②生徒の実態を把握するアンケートの実施

学校における道徳教育の充実を図れるよう、学級・学年全体、ならびに生徒一人ひとりの道徳性の実態や傾向を客観的に把握するために実施したい。

「HUMANⅢ」（新道徳性検査）がいいが450円かかる。予算的に…

(4)研究組織



※分科会名簿

研究推進委員で協議し、名前を入れさせてもらいました。第1分科会には、授業に関わるので担任の先生を中心に入ってもらいました。第2分科会は、学校生活に係わるので生徒指導と生徒会関係を中心に入ってもらいました。第3分科会には、外部との連携があるので教務と学年主任を中心に入ってもらいました。尚、各分科会の責任者をそれぞれの研究内容を考え、○がついた先生にお願いしたいと思います。

第1分科会 大村 隆 (1) 筒井栄太 (1) 日野原裕子 (1) 小高鉄平(1) 加藤紀子(2)
原谷真仁(2) 早川麻里 (2) 齋藤和裕(2) 宮川啓一郎(2) 水上かおり(3)

小高鉄平(1) 長嶋明美(教務) 名取政也(3) 糠信恵里香 (3) ○山本 裕 (3)

第2分科会 ○窪田勇治(教務) 小野明子(教務) 三井保(3) 桐原洋(2) 田草川富夫(3)
古屋奈穂子(3) 坂本伸也(1) 鶴田誠司(1) 角田美聡 (1) 原 ゆほ (教務)

第3分科会 学校長 教頭 金井毅(教務) 小林ますみ(教務) 小林美和子(教務)
筒井修子(1) ○清水岳人(2) 矢澤恵美子(3)

(5)年間計画

	月	日	曜	教協関係	校内研究	初任研	備考	
これまでの確認	4	23	水		校内研究①		全体会（研究の内容・重点・組織について）	
		30	水		校内研究②		全体会 分科会（テーマ・活動計画について）	
	5	7	水	教育研究① 教協総会				会場 山梨北中学校
		14	水		校内研究③			校内研修 指導主事招聘しての学習会
		21	水	教育研究②				
		28	水		校内研究④			分科会 教科別
		30	金				開講式	
	6	4	水	教育研究③				
		20	金				授業研 英語 水上先生	
		25	水		校内研究⑤			分科会
新たな課題の追求	7	2	水		校内研究⑥		全体会 （分科会の中間報告）	
		9	水		校内研究⑦		教科別	
		31	木	教育講演会・ブロック研究①				臨地研修会 富士アイス工場？
	8	4	月	教育研究④				
		20	水		校内研究⑧			研究授業 1 授業案検討
		29	金	教育研究⑤ 統一授業研				
	9	24	水		校内研究⑨			研究授業授 1 業案検討
		26	金				授業研 国語筒 井先生	
	10	1	水	教育研究⑥ 秋季教研				
		22	水		校内研究⑩			研究授業 1 授業案検討 教科別
24		金				授業研 道徳 〇〇先生	研究授業 1	
11		12	水	ブロック交流研究②				講演会・学習会
	19	水		校内研究⑪				
	26	水	教育研究⑦					
公開に向けての提	12	3	水		校内研究⑫		公開に向けての授業案検討	
		5	金				授業研 数学原 谷先生	
		10	水		校内研究⑬			公開に向けての授業案検討
	1	7	水		校内研究⑭			最終確認 環境づくり
		14	水	教育研究⑧				
		16	金	魅力ある道徳の授業 づくり公開			授業研 道徳 〇〇先生 〇〇先生	研究授業 2

案 ・ 成 果 の 整 理		21	水	ブロック交流③			山梨小授業公開
		28	水		校内研究⑮		全体（公開の振り返り 紀 要について）
	2	4	水	教育研究⑨ 統一授業研			
		18	水	教育研究⑩ 冬季教研			
		25	水		校内研究⑯		全体（まとめと次年度の校 内研について）
	3	18	水		校内研究⑰		全体（教育課程づくり）